

# 【 特別セッション 】

以下のセッションは参加費無料です

## ◆熊本地震における

学会員の活動報告と次の災害に向けてのアクション◆

オーガナイザー：畑山満則

15日（土）9:00-11:00 会場 S（石橋湛山記念講堂）

平成 25 年に改正された災害対策基本法において、行政に関わる機関では、災害応急対策で災害に関する情報の収集及び伝達に努めること、さらに、その実現にあたり地理空間情報の活用に努めることが明示された。

平成 28 年 4 月に発生した熊本地震は、改正後に初めて迎えた巨大地震災害であり地理空間情報を用いた様々な活動がなされた。本シンポジウムでは、学会員によって実際に行われた災害支援活動について報告を行い、地理空間情報活用の問題点について議論する。

## ◆第 10 回マイクロジオデータ研究会

「研究から実用へ～マイクロジオデータ研究会

5 年間の歩みとマイクロジオデータの将来～」◆

オーガナイザー：秋山祐樹

15日（土）13:30-17:00 会場 S（石橋湛山記念講堂）

我々は「マイクロジオデータ研究会」と呼ばれる研究会を発足させ、マイクロジオデータの普及と利活用について産官学の有識者を中心に議論を行って 来ました。「マイクロジオデータ (MGD)」とは位置情報や時間情報を持つ時空間的に高精細な(例えば建物や人単位)ジオデータ・アーバンデータの総称のことを言います。MGD は既存の各種統計・空間データでは実現し得なかった、時空間的にきめ細やかな計画・解析等への利活用が期待されています。

マイクロジオデータ研究会は今年で設立から 5 年目を迎えました。設立当初はまだまだ物珍しかった MGD の研究も、この 5 年でかなり進んできました。また様々な MGD が登場し、現在は「研究」から「実用」のフェーズに移りつつあります。

そこで第 10 回の記念シンポジウムとなります今回は、これまでの MGD を活用した研究を振り返ると共に、今まさに MGD を研究・開発の段階から「実用」に移しつつある皆様にご講演頂きます。また MGD の将来性や、MGD を実用していく上での課題などについて議論したいと考えています。

#### ◆ 初等中等教育における

##### GIS を活用した授業に係る優良事例表彰 ◆

オーガナイザー：山本佳世子

15 日（土） 13:30-15:10 会場 A（1151）

日本国内の初等中等教育現場において、GIS を実践的に活用した授業に取り組んでいる教員等の個人又はグループを表彰する。

#### ◆ GISCA 特別セッション ◆

オーガナイザー：大伴真吾

15 日（土） 15:20-17:00 会場 A（1151）

GIS 事業分野の担い手として、GIS 上級技術者（GISE）資格が注目されつつあるが、当分野の更なる発展を期するためには、個々の経験に基づく知見や新たに開発した技術を共有し、議論する場が欠かせない。また、GISE 資格の有効期限は 5 年間であり、その間に、GIS 分野に対して一定の貢献をすることが義務付けられている。

このような背景のもと、本セッションは、資格をもつ発表者には貢献の機会を与え、参加者には教育の機会を与えることを通じて、相互研鑽することを目的に、開催するものである。また、GISE 資格の取得を目指す人々や興味をもつ人々の参加も歓迎したい。

#### ◆ IoT と GIS が創る超スマート社会 ◆

オーガナイザー：巖網林、牧野秀夫

16 日（日） 9:00-10:40 会場 A（1151）

世界は IoT（Internet of Things）によって現実空間（real Space）と仮想世界（Cyber space）が融合し、超スマート社会に向かっています。

GIS にとって、これは革命的な地盤変動であります。GIS 学会

は「IoTとGIS分科会」を設置し、その動向を追跡しています。このセッションは同分科会活動の一環として、超スマート社会におけるGISの位置付け、それを支えるIoTならびに空間情報の要素技術を概観し、GIシステム、GIサイエンス、GIサービスの新しい方向性が議論します。

◆ FOSS4G 分科会 「オープンデータ時代の  
地理空間情報の利用を考える (1)」 ◆

オーガナイザー：岩崎亘典

16日(日) 10:50-12:30 会場 A (1151)

近年、国や地方自治体を中心に、オープンデータの取組が進んでいます。さらに、学術分野で、オープンデータに加えて、論文のオープンアクセス、オープンソースソフトウェアの活用を加えた、オープンサイエンスの取組が進んでおり、H28年1月に制定された第五次科学技術基本計画のなかでも、重要な項目としてあげられています。一方、無料のWeb地図サービスの普及により、様々な場面での地理空間情報の活用も進んでいます。しかしこれらのサービスは、無料で提供されているものの、どのような用途でも使用できるものではありません。特にオープンデータ化が進展し、様々な資料が二次利用可能な形で公開される場合、これまでと異なる問題が生じる可能性があります。

そこで本セッションでは、オープンデータ化が求められる現在、地理空間情報や無料のWeb地図サービス等を利用する場合、どのような利用が可能か、どのような点に留意すべきかについて事例報告とディスカッションを行います。

◆ 自治体分科会 「オープンデータ時代の  
地理空間情報の利用を考える (2)」 ◆

オーガナイザー：青木和人

16日(日) 13:30-15:10 会場 A (1151)

現在、再利用・再配布が可能な行政情報を提供するオープンデータ推進が国主導により進められており、オープンデータに取り組む地方自治体も200を超えています。

行政が作成する地理空間情報、すなわち国土地理院が作成する地図、国・地方自治体が作成する道路、上下水道などの地理空間情報について、地図の著作権と著作権、地理空間情報とオー

プンデータとの関係などについて注目されているところである。

そこで、本セッションでは、これまで行政が担ってきた地理空間情報作成の役割を整理した上で、地図の著作権と版権、地理空間情報とオープンデータなど、オープンデータ時代の地理空間情報について、話題提供を基にワークショップ形式で参加者による議論を行います。

#### ◆若手会員分科会セッション◆

オーガナイザー：山本佳世子

16日(日) 10:50-12:30、13:30-15:10 会場 B (1152)

本学会の次世代を担う若手会員の研究活動の活発化、産官学などの交流を目的とし、今年1月に「若手会員分科会」が設立された。

慶應義塾大学三田キャンパスで開催された昨年度の学術講演会では、キックオフ集会在開催され、約20名の会員が参加した。

本セッションでは、分科会メンバーによるGISの研究、産官学連携活動、行政や企業の活動の成果について報告することを目的とする。

##### (午前) 10:50-12:30

「衛星AISデータ利用による国際海洋法研究の展開」中川 智治

「国土広域情報の更新方法」芹澤 由尚

「マイクロジオデータ研究会－5年間の活動と今後の展開－」

秋山 祐樹

「景観研究から地理情報科学へ」谷口 亮

##### (午後) 13:30-15:10

「歩行散策行動の自動判別における

加速度データの利用可能性について」相 尚寿

「東日本大震災時のツイートを利用した混雑情報抽出の試み」

沖 拓弥

「GISの普及に向けて」土田 雅代

「海外GISインターシップ」秋山 千亜紀